

# 第45期 ビジネスレポート

2020年7月1日▶2021年6月30日

トップメッセージ .....	1
連結業績推移 .....	3
ユビテックグループ中期経営計画 「ユビテック4.0」 .....	4
株式情報 .....	9
会社情報 .....	10

## トップメッセージ



IoTテクノロジー×AI・データ活用  
+ 外部サービス連携のコア技術で  
人と社会に安全と快適を

代表取締役社長 大内 雅雄

*Masao Ouchi*

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

今、社会では大きな変化が生まれ、新しい時代に足を踏み入れています。

新型コロナウイルス感染症拡大は、世界中で過去に類を見ない甚大な影響を及ぼし、働き方改革も加速しています。社会や企業経営における健康と労働安全衛生への意識は極めて高くなっています。また同時に、世の中はデジタル化も加速し、その進展とともに社会生活や企業運営の多様性が増し、文化や英知が一層拡散することも想定されます。

### ○ユビテックグループ中期経営計画「ユビテック4.0」をスタート

このようなニューノーマル時代を迎えた中、その顧客ニーズと社会変化に対応し、高品質で持続的な価値創造を実現する新たな経営基盤の確立を目的とし、今期より、2025年6月期を最終年度とするユビテックグループ中期経営計画「ユビテック4.0」をスタートさせました。

### ○ユビテックの新たな企業理念と目指すビジネスの姿

「ユビテック4.0」では、「お客さまの健康と安全を守る」こと、「社会変革と多様性に応じた最適な答えを導き出す」ことを目的とし、新たに企業理念を「人と社会に安全と快適を」といたしました。

「人」は社会生活上や企業経営上、最も大切で必要不可欠、普遍的な存在です。ユビテックでは、「Work Mate」や「テレマティクスサービス」で、従業員の方々の健康と安全をお守りするサービスを続けてまいりました。また、分析されたバイタルデータや行動データなどは、今後もさまざまな指標を生み出していきます。ユビテックでは、「人」に係るデータ活用を通じて、お客さまの健康と安全の確保に向けてサービスを成長させてまいります。

また、ニューノーマル時代では情報やデバイス機器が無数に増え続けており、その多くの選択肢の中から「タイムリー」に「自分の判断」で「最適な選択」をすることがますます困難を極めています。ユビテックでは「D-COLLECT」をはじめとして、さまざまなデータをお客さまの「目的」に紐づけ、そしてそれを企業経営や人の行動の「改善」に生かしてまいりました。この知見・技術を生かし、お客さまの多様な目的をかなえる最適な答え、体験価値を提供し続けてまいりたいと考えております。

お客さまとの対話を通じて目標と課題に寄り添い、私たちの持つ技術で真のパートナーシップを構築するとともに、オリックスグループの一員としての連携を強化し、より多くのお客さまのサステナブルな企業経営に寄与し、新たな社会基盤の構築にインパクトを与える企業へと成長し続けてまいります。

## ○2021年6月期業績と今後の施策

2021年6月期は、当社のIoT技術を活用し、カーシェア車載機の後継機の開発に着手したほか、工場や工事現場などで働く作業者の安全を見守る安全衛生支援サービス「Work Mate」やAI解析で製造業のお客さまの製品不良要因を特定し、品質改善と技術承継をサポートする「D-COLLECT」のブラッシュアップや製品展開に注力してまいりました。

一方、新型コロナウイルス感染症拡大の影響やキャッシュレス化の進展により、収益基盤であった製造受託事業において需要が減少しているとともに、当社が生産・販売しているテレマティクス車載機製品について、その一部に不具合の可能性が確認され、ファームウェアの修正及び再発防止に向けた社内体制の強化を実施するなど、製品の再出荷に向けた対応を進めておりましたが、業績回復に想定以上の時間を要しております。

その結果、2021年6月期業績につきましては、売上高は1,291百万円（前年同期比26.8%減少）、営業損失は138百万円（前年同期は営業利益51百万円）、経常損失は137百万円（前年同期は経常利益52百万円）、親会社株主に帰属する当期純損失は449百万円（前年同期は親会社株主に帰属する当期純利益39百万円）となりました。また、2021年6月期の期末配当については、この大幅な業績悪化を踏まえ、誠に遺憾ではございますが、無配とさせていただきますことといたしました。

株主の皆さまには深くお詫び申し上げますとともに、可能な限り早期に復配できるよう業績の改善に努めてまいります。

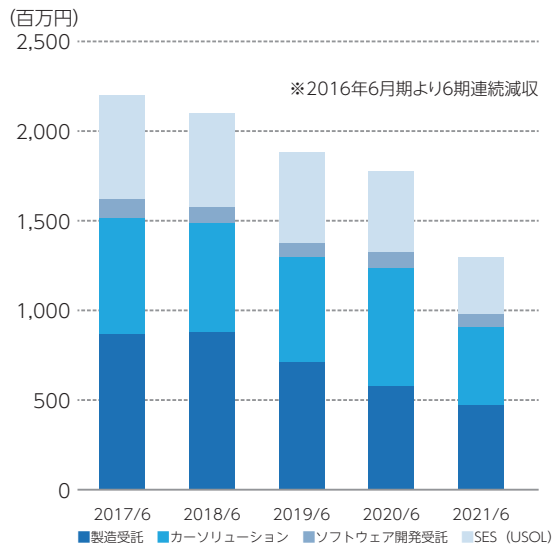
今後は、ユビテックグループ中期経営計画「ユビテック4.0」のもとで、「Work Mate」や「D-COLLECT」の伸長に加え、新たに「モビリティ」と「エネルギー」を注力分野と位置付け、オリックスグループのシナジーを最大化し、人材と新サービス開発に注力してまいります。また、従来のIoTテクノロジーに加え、AI・データ活用と外部サービス連携を今後のコア技術の柱と位置づけ、これまでの特定製品の量産販売中心のビジネス形態から、各事業領域においてIoTアプリケーションサービスならびにSaaS型ビジネスの開発・伸長に注力してまいります。これにより、ビジネスコンセプトならびに事業ポートフォリオを抜本的に改革し、「人と社会に安全と快適を」実現することを目的とし、顧客ニーズと社会変化に対応して常にサービスの価値創造を続ける持続的かつ可変的なビジネスモデルへ変革してまいります。

何卒、一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

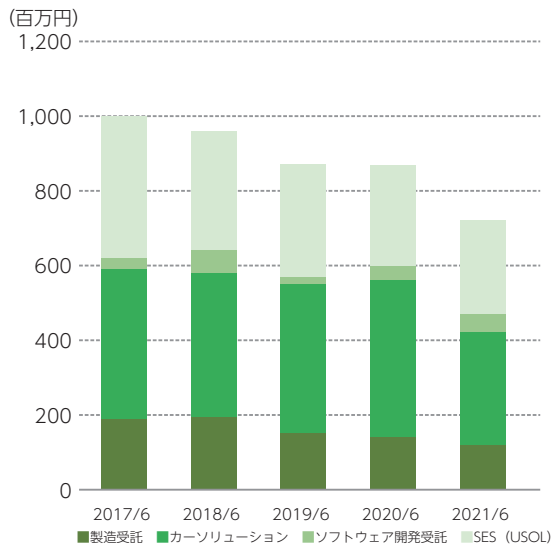
代表取締役社長  
大内 雅雄

## 連結業績推移

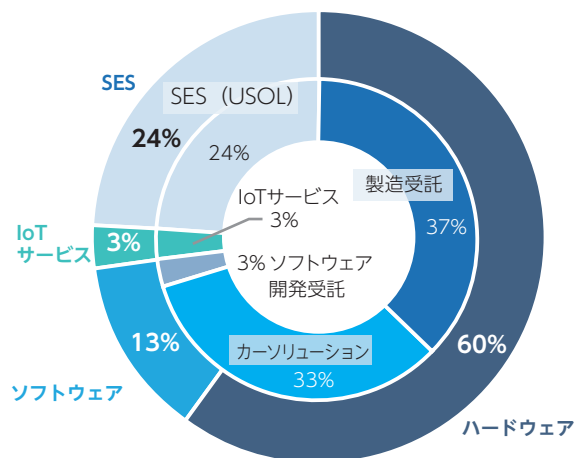
### セグメント別 連結売上高



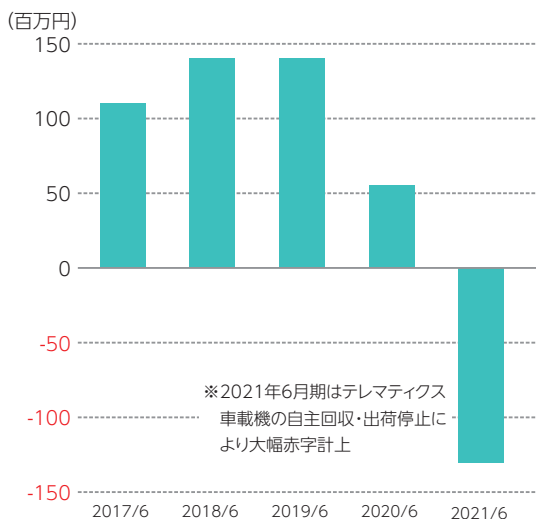
### セグメント別 連結限界利益



### 第45期(2021年6月期)セグメント比率



### 連結営業利益



# ユビテックグループ中期経営計画「ユビテック4.0」

## 企業理念 「人と社会に安全と快適を」

### 顧客提供価値

Protect your Health and Safety

1. お客様の健康と安全を守る

anytime anywhere

Smart - Select & Smart - Matching

2. 社会変革と多様性に応じた最適な答えを導き出す

according to your needs

## ビジョン -Vision-

IoTテクノロジー

×

AI・データ活用

+

外部サービス連携

で

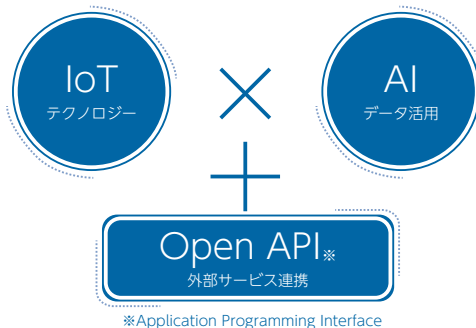
お客様の企業経営と生活を支え、新たな社会常識を創造するイノベーションカンパニーへ

## ミッション -Mission-

サステナブルな企業経営と  
社会基盤構築へ貢献する

## バリュー -Value-

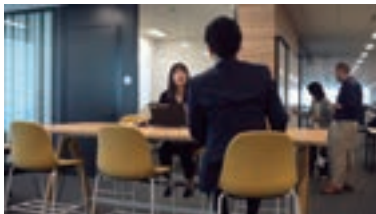
お客様との対話で目標と課題に寄り添い、真の事業パートナーに  
お客様の経営課題を解決するデータ価値創造を実現  
外部サービス連携でお客様の自由度が高く可変的な活動をサポート  
モビリティ、エネルギーの新たな社会基盤を構築  
安全で高品質なものづくり体制を構築



# オリックスグループシナジーを最大化し、事業運営基盤を再構築

サービス開発には、お客さまのニーズや社会変化をいかに的確にとらえていくかが必要です。ユビテックは、これまでの高依存であったレガシーのデバイス、サービスから脱却し、オリックスグループの事業基盤、顧客基盤を最大限に生かした新たな事業運営へ転換していきます。オリックスグループの各事業領域に人材を投じ、業務ならびに事業の運営知識の習得をすることで新たなサービス開発につなげてまいります。既にオリックス自動車、オリックス環境エネルギー本部、オリックス銀行との人材交流を行っています。

※ オリックスグループとの連携イメージ（オリックス東京本社）



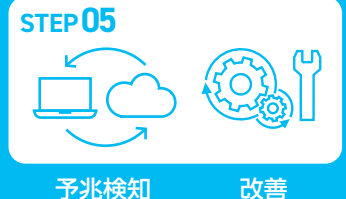
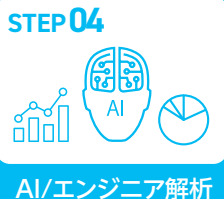
## AI・データ活用による価値創造をサービスの柱に

これまでのIoT活用ではシステム化、見える化が目的となり、それによって得られるメリットやゴールが明確にならずに費用対効果も見えず、次の投資が進まないというお声を多くのお客さまから寄せられています。ユビテックではこの課題に着目し、従来より取り組んでいるAI・データ活用を更に強化し、企業成長に必要な経営改善や競争力を生み出す「答え」を創り出し、経営資源であるデータを、お客さま個別の課題解決、現場改善に直接転換させてまいります。



※ 従来のIoTサービスと、ユビテックの目指すAI・データ価値創造によるサービス展開

ユビテックの提供する新たなサービス  
「データの価値創造  
見える化の先へ」

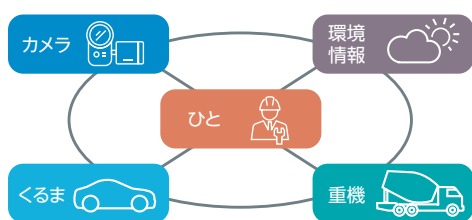


# OpenAPI(※1)による外部サービス連携で利便性の高い統合サービスを構築

企業運営や生活の中でさまざまなサービスを利用するうえで、目的や利用シーンに合わせてシームレスで拡張性のある統合サービスになっていることが大切です。Ubiteqは、AI・データ活用により利用者にとって付加価値の高いサービスを構築し、自社サービスをOpenAPIとして運用することで、さまざまな機能をもった外部サービスとの連携を図り、お客さまの利便性向上を目指してまいります。

※1) 外部システムと安全に連携するしくみ

※ 外部サービス連携による統合サービスのイメージ例【現場管理の一元化/デジタルツインの実現】



## モビリティ、エネルギー事業の新たなビジネス開発

新たな注力分野として、社会的メガトレンドであるモビリティ変革と脱炭素社会を捉え、モビリティ、エネルギー分野での新たなサービス開発に注力いたします。

モビリティ分野では、カーリース等、自動車関連サービスの国内最大手であるオリックス自動車と連携し、新型車載機の開発や新たなドライバー向け安全見守りサービス、スマートシティ等向け U-MaaS (※1) プラットフォームの実証・開発を行ってまいります。エネルギー分野では、オリックス 環境エネルギー本部と連携し、EP100 (※2) 化サービスや、地域分散化するエネルギー事業を各サービスのデータとシステム連携を行うことで、新たな統合サービスを提供する U-EaaS (※3) プラットフォームの実証・開発を行ってまいります。

これらのモビリティ、エネルギー事業は地域分散社会、EVビジネスとの親和性が高いため、それぞれのXaaS (※4) の連携・統合、ならびに新たな EVのRE100 (※5) 充電サービスのサービス開発を作り出すことにチャレンジしてまいります。

※1) Ubiteq-Mobility as a Serviceの略 ※2) Energy Productivity 100%の略 ※3) Ubiteq-Energy as a Serviceの略

※4) X as a serviceの略 ※5) Renewable Energy 100%の略

※ モビリティ、エネルギー事業、EVビジネスのイメージ



# 安全で高品質なものづくり体制を再構築

「人と社会に安全と快適を」目指すためには、安全で安心して使える製品、サービスづくりが第一です。安全で高品質なものづくりを行うため、社内第三者として安全性評価を実施する「製品安全保証チーム」を組織化し、品質に関する「社内統制責任の明確化」と「顧客との関係の強化」を図ってまいります。このために具体的な判断基準に基づく問題発生時の事象定義と対応ルールの再整備を行い、セキュリティ対策（情報保護）とセーフティ対策（機能安全）を両輪で推進いたします。

- Security & Safety by Design に基づく製品・サービスの開発
- 製品ライフサイクル（企画・開発～廃棄まで）を考慮した開発を行う
  - ※企画段階で危険源を分析し、リスクに併せた対策で製品安全性を向上する

安全安心なAI・データ活用と外部サービス連携（OpenAPI）のため、個別の階層での対策だけではなく、提供システム全体を網羅する多層防御の体制を構築し、セキュリティ上の脅威に対応いたします。

- 想定し得るさまざまな脅威への対策を施したIoTシステムを提供
- Fintech等金融系の開発標準に準拠
  - （例:接続適格性、暗号化、認可、認証、監視など）

## 人材開発と外部有識者の連携強化、営業・マーケティング力の向上

ユビテックでは限りある人的資源を有効活用し、IoTビジネス、データ活用ビジネスを進めるために、オリックスグループの各事業領域、事業子会社との連携を図り、業務・事業運営ドメイン知識の習得・教育を行い、新たなビジネス基盤を構築してまいります。

また、各サービス開発において、必要不可欠な専門知識、評価制度を向上させるため、外部有識者や大学、専門機関とのアドバイザー契約を締結することでさらなる知識の向上を図ってまいります。

最後に、加速度的な販路拡大を行うためには、お客さま・社会ニーズを把握し、社会認知度を向上させることが必要不可欠です。これを実現するために、オリックスグループの強固な営業基盤との連携に加え、デジタルマーケティングやインバウンド営業を積極的に推進いたします。

※ 社内風景





# 中期経営計画「ユビテック4.0」が目指すユビテックの新たな事業領域

## 1

### 新たな社会基盤構築

地域分散社会／スマートシティ化に向けた XaaS（※）プラットフォーム開発

※) X (Everything) as a Service

#### モビリティ

オリックス自動車の事業基盤と連携  
ドライバー安全見守りサービス、高機能車載機の開発  
U-MaaS プラットフォーム開発

#### エネルギー

オリックス 環境エネルギー本部の事業基盤と連携  
U-EaaS プラットフォーム開発

## 2

### BtoB AI・データソリューション

従業員を守り、企業成長に繋がる  
経営改善や競争力を生み出す  
AI・データ活用サービス

#### Work Mate

AI・データ活用で事故を“未然”に防ぎ、  
現場の「事故ゼロ」を目指す

#### D-COLLECT

AI・データ活用で製品不良改善による  
「収益改善」と「技能承継」を目指す

## 株式情報 (2021年6月30日現在)

### ■ 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
オリックス(株)	8,527,200	57.64
糸谷 輝夫	625,800	4.23
後和 信英	308,600	2.08
叶 毓菁	195,000	1.31
大野 新司	181,200	1.22
梶川 悦子	176,000	1.18
市嶋 朋子	111,100	0.75
(株)オサムシ	100,000	0.67
SMBC日興証券(株)	94,900	0.64
綾部 利華	75,600	0.51

### ■ 株式の状況

#### 発行可能株式総数

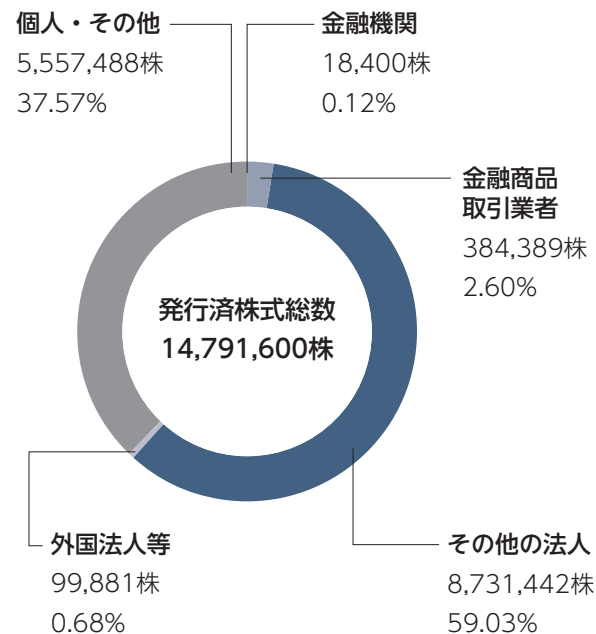
52,000,000株

#### 発行済株式総数

14,791,600株

#### 株主数

3,820名



# 会社情報 (2021年9月22日現在)

## ■ 会社概要

商号	株式会社ユビテック Ubiteq,INC.
設立	1977年11月17日
所在地	〒106-0047 東京都港区南麻布三丁目20番1号 Daiwa麻布テラス
資本金	941百万円
金融商品取引所	東京証券取引所 (ジャスダック)
会計監査人	有限責任 あずさ監査法人
証券コード	6662
従業員数	82名 (連結)
連結子会社	株式会社ユビテックソリューションズ

## ■ 役員

代表取締役社長	大内 雅雄
取締役副社長	前川 淳
取締役	松田 和宏
取締役	高橋 英文
取締役	上谷内 祐二
社外取締役	江崎 浩
社外取締役	中澤 仁
常勤監査役	片野 一宏
社外監査役	津谷 忠男
社外監査役	大月 将幸

## ■ 株主メモ

### 事業年度

毎年7月1日から翌年6月30日までの1年間

### 基準日

定時株主総会、期末配当 毎年6月30日  
中間配当 毎年12月31日

### 定時株主総会

毎年9月下旬

### 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

### 同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
東京都府中市日鋼町1番1号  
TEL.0120-232-711 (通話料無料)

### 郵送先

〒137-8081  
新東京郵便局私書箱第29号  
三菱UFJ信託銀行 証券代行部

### 公告方法

電子公告 (<https://www.ubiteq.co.jp>)

ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。

### ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

